

重要語指導における類義語の指導 —「日本語6α」の授業に参加して—

朱 金月

【キーワード】重要語・類義語・学習者からの質問・教案作成

1. はじめに

「日本語教育実践研究(6)」では、小宮千鶴子先生のご指導のもと、早稲田大学日本語教育センターの設置科目「日本語6α」クラスに、教育実習生として参加した。2006年度春学期、前半は主に授業観察し、後半は実際に院生が授業を担当した。大学院生3人は、それぞれ重要語導入2回(30分ずつ)と精読1回(1コマ90分)を担当した。

重要語とは、日本語能力試験出題基準の「1, 2級語彙表」から2級で初出の活用語を中心に『ニューアプローチ 中上級日本語[完成編]』(7~12課)各課60語、全体で360語を小宮教授が選定したものである。授業では、10語ずつ使い方の指導を連語¹によって行っている。

筆者は、中国語母語話者で、中国で中学校から日本語を習い始めたが、筆者の受けた語彙教育²は、語の意味の説明が中心で語の使用に向けたものではなかった。それに対し、日本語6αでは、連語によって語の使用に向けた指導が行われ、筆者にとってはよいモデルとなった。日本語6αの授業観察と2回の重要語指導で、学習者から常に重要語とその類義語に関する質問が多かったので、筆者は、重要語の導入の中で、類義語に注目することになった。

本稿では、2006年度春学期日本語教育実践研究(6)に参加し、1学期間毎週書いてきた「授業見学レポート」をまとめる。その分析を通して、「学習者からの質問」「(類義語の)教案作成」という実践の段階を通じ、日本語経験の全くない筆者が、どのようなことを学んだかを中心に述べたい。

¹ 早津恵美子(2005:233)によると、「連語とは、2つ以上の語が組み合わさって、1つの語よりも複雑ではあるが一まとまりをなす概念を表すものをいう。」という。

² 顧(1996)によれば、連語は中国の大学における日本語教育では比較的重要な位置を占めている。

2. 類義語の指導

類義語教育の意義を論じる前に、先に、類義語の定義を見てみる。

「... 類義語は、同義語・同意語と呼ばれることもある。二語の意味が完全に同一の場合を同義語、わずかにずれている場合を類義語と呼んで区別する場合もありうるが、...」
(国広哲弥 「類義語・対義語の構造」)

そこで、本稿では、一般に意味が似ている語を類義語とする。

倉持(1986:47)に「外国人に対する日本語教育において、個々の語の意味の理解と並んで、類義語間の意味の異同を的確にとらえさせることは、その成否が学習者の日本語能力の伸長に大きく関わってくるほど語彙指導上の重要な事項である」という指摘があるが、これは、日本語教育における類義語指導の重要性を述べたものと見られる。

複数の類義語を比較検討することによって、微妙な意味・用法の差を的確に把握し、個々の語に対する理解を深め、適切に使用することが可能になる。日本語学習者は、類義語間の意味の相違に関する説明を、辞書の語義記述に求めようとする。しかし、通常の「国語辞典」は類義語に関して十分な記述がなされていないのが現状である。中道(1986)には、次の例が挙げられている。

貯金：金銭をためること。また、ためた金銭。特に、銀行や郵便局に口座を作って金銭を預け、ためること。また、その金銭。

『学研国語大辞典』学習研究社

預金：銀行などの金融機関に金銭を預けること。預けてある金。(同上)

「貯金」と「預金」の違いが分かって読めば、この記述でそれらの関係を反映しているようだが、一方、その違いが分からない学習者にとっては、十分な類義語の説明にはならない。よって、教師自身が分析の方法を身につけ、学習者に説明できるようになることが必要とされる。

3. 類義語に関する学習者の質問

日本語学習者にとっての類義語とは、日本語学においての、いわゆる類義語のみが問題なのではない。日本語母語話者にとってはまったく別語と思われるものですら、ときには類義語として扱う傾向がある。そのゆえ日本人に対する以上に類義語の枠が広い。

森田(1968)は、日本語教育の立場から類義語を①意味上から②機能・用法上から③文法形式上から④表現上からの四つの観点に立って分析し、その相違点を帰納した。

(1) 意味上の相違点

類義語の違いは、主として意味の違いから由来する。類義語といわれるものは、意

味の重なりとずれがあり、しかもその差が微妙で、問題が多い。「あべこべ—さかさ(ま)—反対/遅い—のろい/さわがしい—やかましい」などのように意味の幅が違うものもあるし、「追い抜く—追い越す/つばよだれ」(無意志性と有意志性)、「さわる—いじる」(静的と動的)、「ころぶ—つまずく」(自発と誘発)、「よごれる—けがれる」(具体的と客観的)など意味の性質の違うものもある。

(2) 機能・用法上の相違点

「はだ—皮膚」では、「はだざわり、学者はだ」などの複合語から、「はだ身はなさず/はだに合わない/はだにつける」などの慣用表現に至るまで「はだ」の複合語・慣用句への発展が多彩だが、「皮膚」はそれがいない。

(3) 文法形式上の相違点

自動詞と他動詞の相違：自動詞と他動詞の関係は、日本語教育においては広い意味での類語と考えられる。類語の問題としては、①格助詞「～が、～を」の選択、②「吹く、増す、生ずる」のような自他同形の問題、および「増す—ふやす/生ずる—おこる」において、一方には自動詞または他動詞としての用法があるのに対し、他方にはそれがないこと。③「抜ける—抜く/焼ける—焼く」に対する「あく—あける/つく—つける」の「～く、～ける」といった、活用語尾形式が同じでありながら自他が入れかわっている点などであろう。

可能動詞による相違：自動詞・他動詞に対する可能動詞の関係も、広い意味での類語として扱われる。特に、両者が同形をなす場合には理解のうえで適切な指導が望まれる。次のような例がある。

{	高いのでなかなか売れない。	{	この鋸はよく切れる。
	子供には売れないよ。		この鋸なら、どんな太い木でも切れるでしょう。

(4) 表現上の相違点

これには、文体の問題、待遇表現の問題など色々な要素が考えられる。

敬語表現・丁寧表現による用語の相違：「食う—食べる/やる—あげる」

話し言葉と書き言葉における用語の相違：「あんまり—あまり/おんなじ—おなじ」

和語と漢語における用語の相違：「同じ—同一の/着く—到着する」

今回、学習者からの質問の中、森田(1968)に該当するものは以下のようなものである。

I 類 意味上の相違点

- ①「食い違う」と「違う」がどう違う?
- ②「生中継」と「生放送」はどう違う?
- ③「性能」と「機能」はどう違う?
- ④「勝手(な)」と「わがまま(な)」はどう違う?
- ⑤「勘違い」と「誤解を招く」はどう違う?

Ⅱ類 表現上の相違点

Ⅱ－i 話し言葉と書き言葉

- ⑥ 「体」と「人体」はどう違う？
- ⑦ 「試す」と「試みる」はどう違う？
- ⑧ 「ちょっと」と「少々」はどう違う？

Ⅱ－ii 漢語と和語

- ⑨ 「温暖 (な)」と「暖かい」はどう違う？
- ⑩ 「運搬する」と「運ぶ」はどう違う？
- ⑪ 「開催する」と「催す」はどう違う？

以上、類義語に関する学習者の質問について述べてきたが、次は、その理由について述べてみる。「日本語6α」の学習者3人にインタビューを行い、類義語に関して質問した理由をたずねた。3人は全員中国出身である。次は、その理由を簡単にまとめてみる。

① 辞書の記述

辞書を引いても、相違点が曖昧で、その具体的な使い方が分からない。

取り出す：a：手に取って外へ出す、また、手に持って外へ出す。

b：多くの中から選び抜いて出す。

抜き出す：a：(ある物の中から) 引き抜いて取り出す。

B：多くの物の中から選び出す。

『学研現代新国語辞典 改訂第三版』(2002)

② 既習語との比較

「肩を持つ」と「味方」のように、「肩を持つ」は第10課「マニュアルとユーモアセンス」の重要語として出現したが、「肩を持つ」の解釈が第11課重要語「味方」と似ているので、学習者は確認の意識を持って、自然にそれを比較するようになる。

③ 教師の説明

辞書で語彙の意味を調べる時や教師の説明の語彙の中で、使用した語との違いはどうなっているのかという疑問を常に持っている。

④ 教材

「日本語6α」の学習者は、中上級学習者なので、独自で読解練習をやるわけであるが、その過程で、学習者は、意味のつながりがある語(と想定される)は相互に置き換えられるのかという疑問を常に持っている。

4. 教案作成

連語による重要語の指導の教案は、2005年度秋学期「語彙・意味論」での学習を活

用し、教案作成時、「①辞書での意味・例文→②データベースの実例→③提示する場面設定→④学習者に提示する例文→⑤更に展開」という学習活動の順番を用いた。明らかな類義語のない重要語の教案は、以上のような順番1回で済むが、類義語の教案作成は、同じ作業を2回繰り返し、最後に、学習者に説明できる教師なりの分析をしなければならない。全く初心者である筆者には、日本語教育の「教師」の視点から学習者の質問を予測し、自分なりの分析を行うことが難しかった。

以下は、筆者が教案を作成するのに苦心した類義語を取り上げ、小宮先生からのご指導により検討を重ねた教案を資料とし、教師の類義語についての適切な指導法とはどのようなものなのかについて考察する。

第11課重要語24「煮込む」

教案1

【辞書での意味】

『広辞苑』①種々の材料を混ぜて一緒に煮る。

②時間をかけて十分に煮る。

【KWIC・Googleでの検索】:

○やわらかく煮込まれている。○チキンのじっくりトマト煮込み

○煮込み料理 ○コトコト煮込んだ自家製カレー

【導入】

T1: 何をする時使う言葉ですか。

1S: 料理をする時。

T2: そうですね、料理をする時使う言葉ですね。では、どんな料理を煮込んで作りますか。

2S: カレー、おでん…

(中略)

Tn: では、「煮込む」と「煮る」はどう違いますか。(例文を挙げる)

○さっと煮る。

○3時間煮込む、じっくり煮込む。

このように、時間と関係があります。

辞書とKWIC・Googleでの検索を通して、以上のような教案1を作成した。具体的な用法を提示してから、最後に、「煮る」との相違を学習者に確認する方針であった。ネーション他(2005:104)は、意味が類似している語はそれぞれの意味がよく習得されていない場合は、同時に指導するのは困難としている。しかし、「煮る」と「煮込む」の場合は、「煮る」はすでによく習得されていると予想され、語形にも関連があるため、むしろ「煮る」の意味を利用して類義語である「煮込む」の意味を理解させるという方法が考えられる。

そして、教師から類義語の相違を確認するのはいい方法であるが、そのタイミングがとても大事である。重要語導入の最後に、初めてそれを確認すると、学習者にとっては考える時間がなくなり、ただ教師からの説明を待つことになるとの指摘を受けて、以下のように、教案2を作成した。

教案2

【導入】

T1: 「煮る」は、皆さんもう勉強しましたよね。今日は、「煮る」ととても似ている「煮込む」を勉強しましょう。

T2: 「煮込む」も料理をする時使う言葉で、(スープや熱湯など)液体で煮ることです。煮込む料理には、どんな料理がありますか。

S1: …

(中略)

Tn: では、「煮込む」と「煮る」はどう違いますか。(例文を挙げる)

○一分煮る。

○肉を3時間も煮込むと、柔らかくなる。味がしみこみます。

時間と関係がある。

教案2では、はじめに「煮る」は、皆さんもう勉強しましたね。今日は「煮る」ととても似ている「煮込む」を勉強しましょう。」を言うことで、学習者に「煮る」と「煮込む」の違いを考えさせることができる。重要語の導入過程で、その違いについて自分なりに分析する。これによって、学習者からその違いについて質問することが予測される。しかし、すべてが教師の予定通り進むわけではなかった。例えば、T2の話が終わって、学習者から「煮込む」と「茹でる」はどう違うのかという質問があった。

「煮込む」と「茹でる」は類義語ではないが、類義語辞典などで確認のこと「料理を作る時使う言葉で、(スープや熱湯など)液体で煮ること」なので、学習者はそれを類義語と認識し、その違いをたずねたわけである。

第12課重要語6「性能」

教案3

【導入】 (名詞 機械や器具などの性質や能力。)

ビックカメラに行くと、いろいろなデジタルカメラがあります。

○ カメラの～を比べて買います。

_____の性能

カメラ

エンジン

パソコン

} 機械に使う
(人には使わない、「彼の性能がいい」×)

(中略)

類義語： 【性質】物事が持っている特色。 水に溶けやすい性質

【機能】ものの持っている働き。 病気になって、胃の機能が低下した。

言葉の機能は気持ちを伝えることだ。

筆者自身も日本語学習者なので、自分が想定できる限りの類義語を教案の中に入れた。教案3のように、「性質」「機能」の意味と用例まで調べたが、実際に重要語を導入する時、教師から「性質」「機能」との違いについて質問しなかった。それは、重要語を導入する時、一つの重要語のすべての類義語を提示すると、かえって学習者を混乱させるし、その基本義まで理解できない可能性がある。ネーション他(2005)にも、単語を説明し定義する場合、類似した言語形式の単語、あるいは反対語・同義語に注意をひきつけることは有用で有益な学習ではなく混乱が生じることもあるという指摘がある。そして、今回の教育実践においても、類義語に関する学習者からの質問で、分かっていた学習者までも混沌してしまうことが確認された。類義語を提示するか否かは、授業の流れ次第である。

以上、教案を例に挙げたが、以下は、今回の実践を通じて明らかになった、類義語の指導法をまとめておく。

- ① 類義語の意味の大部分が共有していて、一部のみが異なっているので、学習者に提示する際、その極端な例を提示して明確させる。
- ② 学習者の学習段階に合わせて、導入最初に、類義語を学習者に提示し、それを契機に学習者自ら考えさせる。
- ③ 重要語を導入する時、一つの重要語のすべての類義語を提示すると、かえって学習者を混乱させるし、その基本義まで理解できない可能性があるため、すべてを提示する必要はない。
- ④ 話し言葉や書き言葉という説明では不十分で、その具体的な表現まで提示しなければならない。

5. 終わりに

「日本語6α」は、従来、意味解釈を重んじる語彙教育とは異なり、主に連語として学習者に提示し、その場면을想像させ、実際の運用に重点を置いた教育方法で、新鮮で、魅力的だった。

授業見学レポート、実習教案の作成などの活動を通して、授業の組み立て方や教室活動をどのように展開するのかを学んだ。また、実際に経験してみなければわからない多くのものを得ることができた。そして、決められた時間内に、より多くの知識を学習者に伝える教師側の苦勞を味わうことができた。

本稿では、2006年度春学期筆者が観察したものを整理し、それに考察を加えることで1学期間の実践を振り返りつつ、今後、日本語教育のための手がかりを得ることが

できた。そして、日本語教師としての心がまえ、あるべき姿について模索、発見ができたように思う。

筆者自身も、日本語学習者として、類義語で困ったことが多かった。今回の重要語指導の教育実習を通して学習者の類義語学習が観察できたことは、今後の筆者の教授活動にとって貴重な経験となると思われる。

(シュ キングツ 修士課程1年)

【参考文献】

- 金田一春彦編 (2002) 『学研現代新国語辞典 改訂第三版』 学習研究社
- 国広哲弥 (2002) 「類義語・対義語の構造」 『現代日本語講座第4巻語彙』 明治書院
- 倉持保男 (1986) 「日本語教育における類義語の指導」 『日本語学』5-9 明治書院
- 顧 明輝 (1996) 「連語について」 『言語学林1995-1996』 三省堂
- 小宮 千鶴子 (2003) 「連語の研究-教育表現への広がり」 『早稲田日本語研究』11号
早稲田大学日本語学会
- 柴田武・山田進編 (2002) 『類語大辞典』 講談社
- 玉村文郎編 (1989) 『講座日本語と日本語教育 第6巻 日本語の語彙・意味. 上』 明治書院
- 田 忠魁・泉原省二・金相順 (1998) 『類義語使い分け辞典』 研究社出版
- 中道真木男 (1986) 「国語辞典に見る類義語の記述」 『日本語学』5-9 明治書院
- 藤原雅憲・初山洋介編 (1997) 『上級日本語教育の方法』 凡人社
- 初山洋介 (2003) 「認知言語学における語の意味の考え方」 『日本語学』22-9 明治書院
- 森田良行 (1968) 「類語について」 『日本語教育』11号 日本語教育学会
- Nation, I. S. P. (2001) *Learning Vocabulary in Another Language*, Cambridge University Press/ (邦訳) I. S. P. ネーション著、吉田晴世・三根浩訳 (2005) 『英語教師のためのボキャブラリーラーニング』 松柏社